

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書 (2023 年度採択案件)

1. 業務の概要	
(1) 案件名	インド国タミルナドゥ州ナッタムにおける裁縫職業訓練を通じた貧困女性の収入改善・自立支援・コミュニティ支援プログラム
(2) 実施団体名	NPO 法人 結び手
(3) 実施期間	2024 年 1 月 18 日 ~ 2025 年 1 月 17 日
(4) 実施国	インド
(5) 活動地域	タミルナドゥ州ナッタム
(6) 活動概要	<p>①活動の背景</p> <p>当該地域における女性の地位の低さや貧困の問題は非常に深刻で、最低限の人権さえも十分に保障されていない状況です。こうした女性たちやその家族を支援するため、NPO 法人 結び手 と現地 NGO 団体の INSARD (Institute for Social Awareness and Rural Development) は、コロナ禍における緊急食料支援や医療支援に加えて、継続的に協力して活動を行っています。その活動の一環として、当該地域では裁縫訓練も実施しており、女性たちのスキル向上を目指していますが、販売につながるような 裁縫スキルの獲得には 不十分な 現状です。実際には、製品が規格通りに作成できず、不揃いや歪み、さらにはボールペンの跡が生地に残るといった問題が見受けられました。指導者も、販売につなげるためにはどの程度のレベルまで指導すべきか 明確に理解できていない状況です。そこで 本事業では、すでにインドでの生産実績と日本での販売実績を有し、社会貢献活動への共感と理解を示している日本のブランド「tree & moon」の高度な技術を導入することで、女性達の裁縫技術の向上、雇用機会の創出、自尊心の向上を目指しました。</p> <p>②活動の目標</p> <p>tree & moon が有する高度な 縫製方法と基準を現地で教育し、Center for Hope Garment (CHG) を通じて製品を販売します。CHG は Stanley 氏が設立し、INSARD での裁縫訓練を修了した女性たちの一部が雇用されています。JICA 基金事業期間中と同様に、事業終了後も当ブランドから CHG へのオーダーは継続され、将来的にはオーダー量を増加させる予定です。</p> <p>具体的には、現地 NGO の代表である Stanley 氏が日本向けの製品を作る能力を有すると考えられる現地の指導員を 1 名選抜し、その後 tree&moon のパターンナーである日高氏と志和氏が実際に現地へ赴き、指導員が女性たちに指導する現場に立ち会いながら、当ブランドが求める品質基準、裁縫技術、製品の取り扱い方法を指導員および女性たちに伝授します。日高氏と志和氏の 帰国後は、志和が送られるサンプルをチェックし、オンライン会議を通じて定期的に指導員と女性たちの製作スキルを観察し、アドバイスを行います。また、 Stanley 氏およびインド在住の NPO 法人結び手代表である福岡 が現場の運営・管理を担当し、適切なプロジェクト運営が確保されるよう努めま</p>

す。女性たちは、半年間にわたり平日1日3時間、既存のNGOが提供する訓練場所に通い、縫製訓練を受けます。

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

2024年1月、NPO法人 結び手 の福岡、tree & moonの志和氏および日高氏が現地に渡航し、現地の指導者および女性たちに対して直接的な指導を行いました。具体的には、tree & moonのパターンを使用し、現地の指導者をはじめ、訓練生に対して日本で販売可能な製品を作成するための高品質な縫製方法を伝授しました。さらに、インドの農村地域では見られないデザインや日本や他国特有の新しい技術を教え、作業の丁寧さや縫製場の清潔さを保つこと、また検品作業において細部を確認し、誤りがあればすぐに修正することなど、細かい部分にも配慮して指導しました。帰国後も、志和氏にサンプルや写真、ビデオを送ってもらい、毎月オンラインミーティングを通じてトレーニングの進捗状況を確認しました。訓練生たちが誤って縫製した箇所の指摘と改善方法を伝え、分からない場合は縫製方法を説明するYouTubeの動画を送って学んでもらうなど、日高氏からのアドバイスも受けながら進めました。日本で販売できるレベルの縫製技術を習得するための基準を設け、一定の練習を経た後にテストを実施しました。テストに合格した訓練生は次のパターンに取り組み、ワンピースやパンツ、スカート、ブラウス、シャツ、巾着、刺繍など、さまざまなスタイルの洋服の縫製技術を習得しました。ま

た、縫製が得意な訓練生には、苦手な訓練生に教える時間を設けることで、教える側も復習しながら理解を深めることができました。Stanley 氏は現場監督として指揮を取り、福岡 は3回現地を訪問し、運営管理を行いました。2025 年 1 月には、志和氏が 2 回目の渡航を行い、最終的なトレーニングの確認を実施しました。

(2) 実施成果：

2024 年 1 月に日高氏が現地に渡航した際、訓練生たちは「こんな遠くまで私たちに技術を教えに来てくれた」と感動し、その事実だけでモチベーションが高まり、真剣に取り組むようになりました。最初の 3～ 4 ヶ月の間には、すでに綺麗な返し縫いができるようになり、ほつれもなく、指定されたサイズ通りに仕上げられるようになりました。また、商品をきれいに扱うようになり、汚れやマーカがつくこともなくなりました。

1 年間のトレーニングを経て、訓練生 8 名の最終的なテスト結果は以下の通りです：

Bhuvana、Vanitha、Valli は 12 個のパターンに合格

Saranya、Dhanalakshmi は 8 個のパターンに合格

Senbagam、Savathiyamal は 6 個のパターンに合格

Ramy (他のメンバーより 6 ヶ月遅れてスタート) は 4 個のパターンに合格

その後、トレーニングの成果が実を結び、1 年間のプロジェクト終了後には、tree & moon から 5 種類の洋服のオーダーがあり、さらに他の 4 つの日本のアパレルブランドからもオーダーを受けることができました。インドの他の工場で作っていたブランドからは、「こんなに綺麗な縫製は初めてだ」と言われるほどの評価を得ることができました。このプロジェクトがなかったら実現できなかったことなので、ご支援に深く感謝しております。

(3) 得られた教訓など

本事業の対象である女性たちは、女性であることだけを理由に学力を得る必要がないと教えられてきたという背景があります。そのため、トレーニングを始めた当初は、経験したことのないパターンの洋服に挑戦することに恐れを感じ、自信を持っていませんでした。しかし、徐々に簡単なものから進めていき、テストに合格したり、うまく縫製ができたときには、とにかく褒めることを意識してトレーニングを進めた結果、彼女たちの自信が少しずつついてきているのが感じられました。それだけでなく、この一年を通じて彼女たちの笑顔が増えたことに気づきました。最初はシャイであまり話さなかった訓練生も、1年後には明るく話し、自分の意見をしっかりと発するようになっていたことを本当に嬉しく思います。日々、女性差別や家庭内暴力といった困難に直面している彼女たちにとって、この場所は安全で安心できる空間となっていました。共に仕事をし、トレーニングを受け、教え合い、助け合い、相談し合う中で、深い絆が築かれていきました。また、新しい縫製技術に挑戦し続けることで、努力や達成感を感じ、生き生きとした楽しそうな表情が見られました。そんな姿は私たちの心に深く響き、SNSを通じて多くの人々にも感動を与え、考えるきっかけとなったのではないかと思います。縫製技術を学ぶこと、貧困問題の解決に向けた取り組みはもちろんのこと、彼女たちにとっても、このプロジェクトに携わった私たちにとっても、それ以上の大きな“何か”をそれぞれ得ることができたと感じています。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針

CHGではtree & moonからのオーダーだけでなく、さらに多くのクライアントからのオーダーを受けることが求められるため、志和氏がCHGの日本における営業担当を務めることになりました。SNSやイベントの開催などを通じて、CHGの魅力を広め、オーダーに繋げていく予定です。最近では、ファストファッションの流行により、安価で製作される縫製工場が増えており、その背後で苦しむ貧困層の人々がいます。しかし、多くの人々がその実情を知らずに購入している現状もあると思います。CHGを広めることで、少しでも多くの人々がその背後にある問題を考えるきっかけとなってほしいと願っています。1年前と比べると、彼女たちの技術は驚くほど向上し、非常に丁寧な縫製ができるようになりました。しかし、依然として個々の縫製技術には得意・不得意があり、まだ十分なトレーニングが必要な訓練生もいます。得意でスキルを伸ばした訓練生も、未だ練習していないスタイルの洋服が多く残っているため、今後も仕事を続けながら引き続きトレーニングを重ね、さらに技術を高めていく予定です。またJICA募金活用事業に応募させていただきたいと検討しております。どうぞよろしくお願い致します。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

今回の事業を通じて、1つのプロダクトを丁寧に縫うことで職人氣質が育まれ、彼女たちの仕事に対するモチベーションが向上したと感じています。また、お客さまに商品を届けるという気持ちにも変化が見られました。指示をしなくても、自らお客さまへの手書きの手紙を添えて発送するようになり、お客さまが商品を受け取った際に満足しているかどうかを気にかけるようになったのです。プロジェクト開始前は生活のためにお給料を得るために働いていた訓練生たちが、今ではプロフェッショナルとしての自覚を持ち、意欲的に取り組むようになりました。この変化は、日本からパートナーの日高さんが来てくれたこと、毎日失敗を重ねながら新しいパターンに挑戦し、合格する達成感を積み重ねてきたこと、そしてみんなで共通の目標に向かって努力を続ける決意を固めたことがあったからこそその成果だと思えます。

(2) 活動の写真



福岡、志和、日高氏が現地で直接指導。



Stanleyと志和、訓練生。パターンの確認。



志和、日高氏が現地指導者に教えている。



縫製が得意な訓練生が苦手な子に教えている。



志和氏と出来上がったサンプルを確認している。



学んだこと全てノートに書き留める訓練生。



CHG で製作し実際に tree & moon で販売している洋服。



1年間のトレーニングで学んだ技術を生かし制作したワンピース。2025年春夏販売予定

(3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

同じ目的を持つ民間企業・日印の NGO が共同する機会となった点